

笹川平和財団第75回理事会 特別講演

# 「愛・地球博について」

財団法人 2005年 日本国際博覧協会

事務総長 坂本 春生

2002年9月19日

於：日本財団ビル8階会議室





## 坂本 春生（さかもと・はるみ）

1938年、東京都大田区生まれ。62年、東京大学経済学部卒業。同年、通商産業省に入省。86年6月、札幌通商産業局長。87年6月、通商産業省を退官。89年、西友顧問。90年5月、同常務取締役、93年5月、同代表取締役専務。97年、同代表取締役副社長。97年9月、西武百貨店代表取締役副社長。98年6月、セゾン総合研究所理事長。99年4月、経済同友会副代表幹事。2000年4月、西武百貨店代表取締役副社長退任。00年9月、セゾン総合研究所理事長退任。00年10月、財団法人2005年日本国際博覧会協会事務総長。99年3月より笹川平和財団評議員。

## 《講演》

### 「愛・地球博」のテーマは「自然の叡智」

本日は、久々にこの会に参加させていただきました。それにもかかわらず、私の仕事のことでお話をさせていただくチャンスを頂きまして、まことにありがとうございます。日ごろから、色々な方面で、博覧会についてお世話になっているかと思いますが、今日は皆様がお食事をされている時間にお話をとということですので、あまり堅苦しいことは申しません。「愛知万博・昼の憩い編」ということで、軽くお話をさせていただきたいと思う次第です。

とは申しましても、いくら「昼の憩い編」でも、最初に肝心なことは申し上げなければなりません。愛知万博は正式名称を「2005年日本国際博覧会」といいます。私はその協会の事務総長をいたしております。通称が愛知万博で、愛称が「愛・地球博」と申します。

この「愛・地球博」は、2005年3月25日から半年間、名古屋の東20キロほどのところにある、長久手の戦いで有名な愛知県長久手町、それから瀬戸物で有名な愛知県瀬戸市にまたがって開かれます。テーマは「自然の叡智」でございます。

### 新しい世紀の新しい挑戦

本当にお聞き流しただけだよということ、2点ほどお話ししたいと思います。

まず第1点は、今回の私どもの博覧会は、新しい世紀の新しい挑戦であるということです。これはどういうことかと申しますと、20世紀型の万博として考えますと、今回の私どもの博覧会は、失敗の条件が全部そろっております。まず公共事業が大変下火であるということ、それから環境問題が極めて厳しくて何をするにもチェックされるということ、それからこういう事情ですから国や企業はお金に対して大変に厳しいということ、それから世界的にいえば、アメリカ合衆国が自分の国中心で、よその国との付き合いはほとんどお考えにならないということです。アメリカ合衆国は現在、正義のためのテロに対する戦争は別として、それ以外の融和的な付き合いは非常に消極的なのです。

こういう状況の中で、博覧会を開くということは、本来は、失敗の条件が全部そろっているということです。20世紀型の博覧会を開こうと思うと、デメリットばかりなのです。

『ローマ人の物語』を書いておられる塩野七生さんに、先日、その文庫本をいただきました。読ませていただくと、こういうくだりがありました。自分は、ローマの勇将のことをずっと

書いてきたけれども、ローマの勇将にはすべて共通している点がある。それは何かというと、デメリットを補おうとするのではなくて、デメリットをメリットに変えたということだ、とありました。多分これは戦場とか戦争においてのことだと思います。私もこちらの博覧会の事務局に参りましてから、20世紀型の博覧会のデメリットをどのようにしたらよいだろうと考えておりました。この本を読ませていただいてよく考えましたら、20世紀型のデメリットは、21世紀型のメリットに変えればいいのだということに気が付きました。いまそういう挑戦をいたしております。

たくさん挑戦しているのですが、その一端を3つほどまずお話ししたいと思います。

## 公共事業に頼らず博覧会を開催

第1点は、非開発型でいこうということです。すべて公共事業に頼らなくても、博覧会を開催できるようにしようということなのです。

実は、この博覧会の開催が1997年に決まりました時には、お定まりのように、新しい住宅地を開発する過程で、森の博覧会を開くという計画でした。里山なのですが、「海上(かいしよ)の森」という森に、新住宅市街地開発事業を計画しておりました。

ところが、この海上の森での新住宅市街地開発事業計画は、環境を破壊するという批判が強く、駄目になりました。私は事務総長に就任してから、語呂合わせ川柳にこっているのですが、その一つが、「新住と無理心中せず生き延びて」というものです。

博覧会は生き延びました。広い海上の森のなかの、別の場所で開催しようということになったわけです。とりあえず、新住宅市街地開発事業という公共事業とは一切関係なくなりました。

それから、博覧会を開くというと、普通はそのために鉄道が敷かれたり道路ができたりするのですが、今回は博覧会のための大公共事業は1つもありません。鉄道としてはHSSTといって、摩擦がない常電導磁気浮上式の高速度鉄道が、最寄りの地下鉄駅などと会場を結びますが、これも2008年にできあがる予定を2005年に繰り上げただけです。中部国際空港もやはり開港を繰り上げて2005年に間に合うとか、周辺地域での第2東名高速道路の建設がきっちり予定通りに進んでいるということはありますが、特別な公共事業はない中で、非開発型の万博をするという新しい挑戦にいま挑んでいるわけでございます。

従って、既存の道路、それからさまざまな既存の施設の中でやっていくということが第1点です。

## 自然と環境を守るのが大原則

2点目としては、自然とか環境を守るということの中で行われるということです。私どもの博覧会が受けております環境アセスメントは、大変厳しいものです。これをクリアして博覧会は開かれるわけです。私も大変驚いたのですが、あの地域は、植物でいうとシデコブ



シとか、動物でいうとホトケドジョウとか何十種類もの希少種がいます。

「どうしてこの地域はこんなに希少種がいるのですか」と私が聞きましたら、「それは博覧会が開かれるからです」といわれました。あちらこちらに希少種はいるのですが、博覧会があると、初めてそこに日が当たるのです。それで、「これを守ろう」という運動が起きあがってくるのです。必ずしもそこは希少種が多いわけではないのですが、大変多くの希少植物・動物がいることになるのです。

それから、お手元の基本計画(資料1・14ページ)をちらっと横目でご覧いただきますとお分かりでしょうが、会場となる

地域は木々が大変多い所です。こういうものを大きく壊さないということが前提となっています。

先ほど少し申し上げましたが、海上の森での開催は、新住宅市街地開発事業と“無理心中”せず生き延びた後、会場の森の中で当初予定した場所とは違う所で開催することになりました。ところが、今度はそこにオオタカの巣があることが分かりました。

オオタカというのも、大事な保護しなければならない鳥であります。今日はいろいろと環境に関心のある方もおられますので、私は決してタカを馬鹿にしたり悪くいたりするわけではないことを分かっていたいただきたいのですが、単なる語呂合わせの川柳として、「たかだかがタカに追われてかいしよなし」と詠みました。その結果、海上の森の会場が大幅に縮小されたわけです。私としては、海上の森などという所でとても大規模な博覧会ができる自信はございません。

その後、青少年公園という所に博覧会の根拠地が移りました。それを私は大変よかったですと思っております。私は、「オオタカ様」にお礼を言いたいと思っているぐらいですし、事実、オオタカの保存についても今、一生懸命やっております。

資料を見ていただきますとお分かりになります通り、ほんのわずかに海上地区での事業が残っておりますが、万博のほとんどの事業は青少年公園で行われます。

この青少年公園は、いまは公園ですから緑が大変美しく、起伏があります。いちばん高い所といちばん低い所では40メートルも、高さの差があります。池もたくさんあります。これを一切削ることなく、池も埋めないで博覧会を開催する。これが環境・自然保護の基本になっています。

一時、大変偉い“万博の神様”が万博協会においてなまして、「万博が遠慮して歩いていたのでは万博というものにはできない」のだとおっしゃいました。そして、この高低差を「真っ平らにしなさい」とかいっとうお話もあったのですが、それはしておりません。

別のアイデアもありました。青少年公園の近くに、けい砂とか瀬戸物の土を取る「土取り場」という所があります。それが非常に広いものですから、そこをつぶして博覧会の会場にしたらどうか、という案も1年前には出ました。

しかし、まず地主のみなさんに対して、補償などの約束をして、それから準備や工事を始めるというのは時間的にもどうも無理だということで、良いアイデアではありましたが、実行ませんでした。

このときに私が作りました語呂合わせ川柳は、「土取り場に足を取られて土がつき」というものです。この川柳はもちろん、冗談でございます。

そんなこともありました。

いまは青少年公園という見るだけでも大変美しい所で、万博の施設を造っているわけです。池は一切潰しませんし、希少種は、動物も植物もそのまま守ります。

## バリアフリーの空中回廊で、世界100カ国に「こんにちは」

青少年公園の起伏はそのままにして、人がまっすぐ歩くことができる、しかもバリアフリーの道を造ろうということで、考えたのが「グローバル・ループ」というものです。これは後でちょっとビデオを上映いたしますので、そのときに見ていただければ結構なのですが、要するに幅20メートル以上ある空中回廊を、会場内に一周2.5キロで造ります。観客のみなさんにはその上を歩いていただくわけです。

この空中回廊は、環境を大事にする型の施設です。回廊の脚は、なるべく地面を大きく掘り下げず、土はなるべく少なく掘って、そこへねじり込みで入れます。博覧会が終わったら、それをまたねじり込みで出して、使用したスチールはリサイクルするのです。

この空中回廊2.5キロを一回りしますと、その周りにある世界の公式参加国—現在は約50カ国ですが、100カ国ぐらいに参加してもらおう予定です—に、「こんにちが」ができる、そういう施設になっております。もしこの空中回廊がうまくいきましたら、真っ平らでなく、起伏がある自然の中で行われる万博ということで、世界初の挑戦になると思っております。

## 米国への参加呼びかけに苦心

3番目の挑戦は、アメリカ合衆国への協力の要請ということです。

アメリカ合衆国の非協力性というのは先ほども申し上げました。ご承知の方もおられると思いますが、アメリカ合衆国は、数年前に、世界のいずれの国であっても、他国の国際博覧会には一切予算を出さないという法律を通しております。従って、放っておきますと、アメリカ合衆国の星条旗が愛知万博会場に立つということはありません。2000年に行われたハノーバーの万博でも星条旗は立っておりません。

日米の現在の関係の中で、日本としてアメリカ合衆国が来ない万博というのはあるだろうか、大変悲嘆にくれたのですが、私はなんとかアメリカ合衆国に参加していただこうといま、努力しております。

まるで昼食にご飯をいただくのに、いまから苗床に種を蒔くようなことをいまして、アメリカ合衆国を呼びたいと思っております。

それは、まずアメリカの企業から賛同を集めまして、それをお饅頭のあんこにいたします。それだけですと、企業のプライベート参加ですから一国の公式参加者にはなりません。そこで、その周りに州とか市に参加してもらおうのです。州とか市はお金がありませんから、名目だけ、形式的に参加してもらいます。それをお饅頭の薄い皮にするのです。

このお饅頭を、アメリカの国務省に持って行って、「これだけ民間が努力しました」と訴えます。そのお饅頭の名前は、NPOないしはNGOです。「そういうNPO、NGOがこんなに日本の博覧会への意欲をみせております。ついては、予算は1銭もありませんので、公式参加としてお認めください。日本へ出ていったら星条旗を立てて、ナショナルデーにはアメリカの政府代表に来てください」と訴えるのです。

旅費も多分日本で持たなければいけないと思いますが、そんなことをいまお願いしているところです。大変迂遠なことをやっておりますが、もしアメリカ合衆国の要人にお会い



になりましたら、何が何でもアメリカ合衆国の出展を認めていただくように、お願いしていただければありがたいと思います。

以上3点が、私どものしている挑戦のほんの一端です。

いま私どもが一生懸命やっておりますことは、1番目が非開発型で、交通機関やその他特別な公共事業をすることなしに、自力で何とか混乱を起こさないようにやりたいということ。2番目が、自然と環境を大事にしつつ、人のバリアフリーもきちっと尊重して、安全で楽しく快適な会場を造りたいということ。3番目が、こういう経済状態のなかでも、アメリカ合衆国に参加していただき、「愛・地球博」に何とか星条旗を立てたいということです。

その3つを、今日はとりあえずご紹介させていただきました。

## 皇太子様が名誉総裁にご就任

お話ししたいことの2番目は、「愛・地球博」の近況についてでございます。ここに『愛・地球博だより』というのをたまたまお配りしてありますが、その中に出ておりますことをほんの一言、二言申し上げようと思います。

まず1番目は、皇太子様に今年6月29日、名誉総裁にご就任いただきました。これは通例より1年ぐらい早いご就任でございまして、大変名誉なことだと思っております。

## 知恵を絞って、「愛・地球博」と愛称決定

近況の2番目は、やはり『愛・地球博だより』に出ておりますが、マスコットキャラクターと、それから「愛・地球博」という愛称を作ったことです。

私どもは博覧会を、ずっと愛知万博と呼んでいたのですが、「愛知万博」という名称がだんだん有名になりますとともに、少しずつ愛知県から外へ出て中央に広がるようになりました。例えば小泉総理のお耳にも届いたりしますと、まず「愛知」という言葉はローカルティーが強過ぎるという意見がでてきました。さらに、「万博」という言葉は、単なる博覧会の形式であって無味乾燥な言葉であるという意見もうかがいました。「もっとローカルティーがなくて、哲学的な名前を付けよ」という、ご下命を受けまして、私どもが一生懸命に考えましたのが「愛・地球博」という愛称です。

20世紀までは、人間万能であって、人間の叡智は素晴らしかったけれども、自然からいろいろしっぺ返しをされている。自然の叡智を尊重して、地球を愛するということで「愛・地球博」という名称に決めました。

愛称を考える際には、ほかにもいくつかの案を出しました。こういう愛称などを作るときには、賛成者がいて、しかし、反対者も非常に多いというのが当たるのです。大勢の人が、まあこんな程度だろうといったものは、ほとんど当たらないということを経験的に存じております。この「愛・地球博」という愛称は、推薦者も多かったのですが、「こんなのはちょっと」という人も少なからずいました。でも、愛称の案の中にこれも交ぜて出しましたら、小泉総理が、「『愛・地球博』が非常に気に入った」とおっしゃいました。

ちょうど愛子様がお生まれになった年だったものですから、「愛子様の愛も入っている」とおっしゃいました。そういうことで、愛子様のお蔭もありまして、こういう名前が付きました。

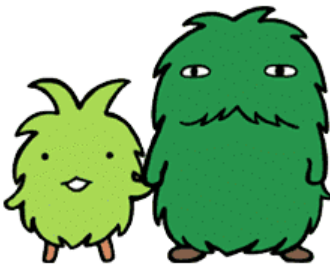
「愛・地球博」という愛称を、いま全国に広めておりますので、お耳のどこかに残していただきたいと思っております。

ところで、愛称には隠し味もちゃんと入っております。私は東京人ですが、「愛知県の人には『愛知万博』という名称がなくなってさぞ寂しかろう」と密かに思ったからです。愛称を字で見ますと「愛・地球博」ですが、音で読んでいただくと、「あいちきゅうはく」でして、ちゃんと「あいち」という言葉が入っているわけでございます。

## 緑の服で万博をPR

こういう苦勞もしながら愛称を決めました。それからマスコットキャラクターも「モリゾー」と「キッコロ」という名前に決まりました。日本人の方ですが、「アランジアランゾ」という姉妹の制作グループがマスコットキャラクターを作ってくださいました。その名前を募集しましたら、全国から8万2527件の応募がありました。

名前は、森のおじさんと子供ということで募集いたしました。森のおじさんについて、いちばん多かった名前が、なんと「森じい」でした。いかになんでも「森じい」では、「塩爺」の二番せんじではないかと、審査員が絶対にいやだといったものですから、モリゾーに落ち着きました。



(マスコットを示しながら)これがモリゾーとキッコロです。ご覧いただけますようにどちらも緑です。万博カラーも緑です。従って、私はここに万博の公式マークとモリゾーとキッコロのマークを付けておりますが、私自身上から下まで全部緑色です。最近、時計まで緑のものを着けさせていただいております。眼鏡も緑です。

長野県の田中知事はブランドで身をかためられたうえに、ヤッシーのマスコットを胸に着けられているので、「ずいぶんキザだな」と私は見ていたのですが、よくよく考えましたら、私のほうがよっぽどキザでございます。10人以上が集まる会合には、私は全部緑の洋服で出席しております。緑の洋服をどれだけ買ったか分からないのですが、ご覧になる方は私が1着をずっと着ていると思っていらっしゃるかもしれません。

そんなことが2点目です。

### **建設費1350億円の3分の1は民間にお願い**

3点目ですが、先ほども評議員会・理事会でお金のことが出ておりました。私どもの万博は建設費が1350億円、それから運営費が550億円の予定です。運営費の550億円は、入場券と、それからマスコットキャラクターなどを配したグッズ、それから営業の出店料で、全部自分で集めなければなりません。

建設費の1350億円のうち450億円は国が支出し、450億円を愛知県と名古屋市が支出します。そして、残りの450億円は、「民間から集めよ」ということになっております。

そのうちの約半分の230億円は、「産業界から集めよ」ということになっております。こういう時代に、230億円というのは、気の遠くなるようなお金ですが、お蔭様でいま206億円ほど集めました。あと一息でございます。2005年までには230億円を集めるつもりです。

大変に難しいのは、民間の450億円のうちの残りの220億円を公営ギャンブルからいただくということでございます。私は、笹川平和財団と私どもの財団法人は、日本財団にお世話になる兄弟だと思っておりましたが、今日説明を聞きまして、兄弟ではなくてライバルだということが分かりました。ある一定のお金をお互いに少しでも多くいただきたい、という関係にあるということが分かりました。

実は、公営ギャンブルの対象は、競艇と自転車でございます。自転車は経済産業省の所管ですから何とかお願いしております。競艇はいま日本財団にお願いをしております。国土交通省にもお願いしております。

今日は有力者の方が何人も見えていらっしゃいますので、私は大変心強く思っております。私どものお願いを皆さん、大変好意的に受け入れてはいただいているのですが、なにせ金額は、今日お聞かせできないくらいぴっくりするほどの額をお願いしております。

従いまして、これを何とか達成するためには、「まず地元で汗をかきなさい」と国土交通省から言われました。

## 競艇場で万博PR、マスコミも乗せる

そういうこともありまして、実は第1回の「愛・地球博協賛レース」が奇しくも今日、愛知県蒲郡市の蒲郡競艇で開かれます。私も初めてのことでございますが、応援を兼ねて今日、競艇場に行こうと思っております。

昔、サントリーの広告に、「トリスを飲んでハワイへ行こう」というものがございました。こういうことを言うと年が分かるのですが、今日は分かってくださっても差し支えない方ばかりですのであえて申します。私は「地元で競艇を見て、万博を成功させよう」と訴えまして、偉い人を全部鳩合いたしました。そうしたところ、「今夜は大変なことになる」というので、とうとう新聞記事になりました。

この間からこういう新聞記事がたくさん出ているのですが、たまたま今日新幹線の中で見ましたら、「競艇場で万博PR。今夜蒲郡で協会会長ら観戦」という記事が出ておりました。愛知万博協会の豊田章一郎会長と私の名前も書いてありまして、「名古屋市市松原武久市長ら総勢数百人が19日夜、愛知万博の協賛レースが開かれる愛知県蒲郡市の蒲郡競艇を観戦する。万博マスコットをあしらったTシャツなどを身にまとい、狙うは万博の知名度アップ」とあります。

実は、私は、これからこれ(万博Tシャツ)を着て行かなければいけないのです。でも、私は自分のことばかり考えません。今日この愛・地球博のレースに来ていただくお客様のお蔭で、私どもは売り上げの何パーセントかをいただくわけですので、今日来ていただいた方々と主催者の方々にお礼のために、横断幕は万博ではなくて、「ありがとう愛・地球博協賛レース」という横断幕を掲げます。

万博のTシャツを着て、万博のうちわを持って、今日は異様な集団が数百人蒲郡競艇に出かけます。異様なものがあれば、必ずマスコミが来ます。そうすると、テレビに出ますから万博もPRされますし、それからレースもPRされるというわけです。

記事の中でも、「来年2月には、愛知県常滑市の常滑競艇場でも協賛レースがある」と書いてくださっているように、マスコミを挙げて協賛レースを応援してくださることになります。

近況の中でもいちばん最近の、今日の近況というのをちょっとお話して、私の話は終わろうと思います。

あと5、6分時間がございますので、お急ぎでない方はビデオをちょっとご覧いただきまして、最後に私がお礼を申し上げたいと思います。

(ビデオ上映)

## 民族・文化を越えて交流する場を提供したい

ビデオは非常に短くて、また出来も悪いのですが、画面に映ってありましたちょっとヒョウタンみたいな形をしたもの、あれがグローバル・ループという空中回廊です。

以上で私の今日お話ししたいことは終わります。

先ほど申し上げましたように、外国がもう50カ国以上参加してくださっていますし、民間館は、例えば三菱グループ、三井グループ、それからJRとかで、予定地は全部満杯になっておりまして、参加者も着々と整っております。

私は、この博覧会について、まず、やはりこういう時代だからこそ日本から何かを発信したい、なかなか悲しいことの多い時代だからこそ、いろいろな民族・文化を越えて交流する場を日本が提供したいと考えております。もう1つ日本のエゴでいえば、日本を観光客が入ってくるような国にしたい。「その1つに万博が役立たないか」、こんな大義名分をもって日々務めております。どうぞこれからもご支援をよろしくお願ひしたいと思います。

## 万博支援のためにはまず入場券の購入を

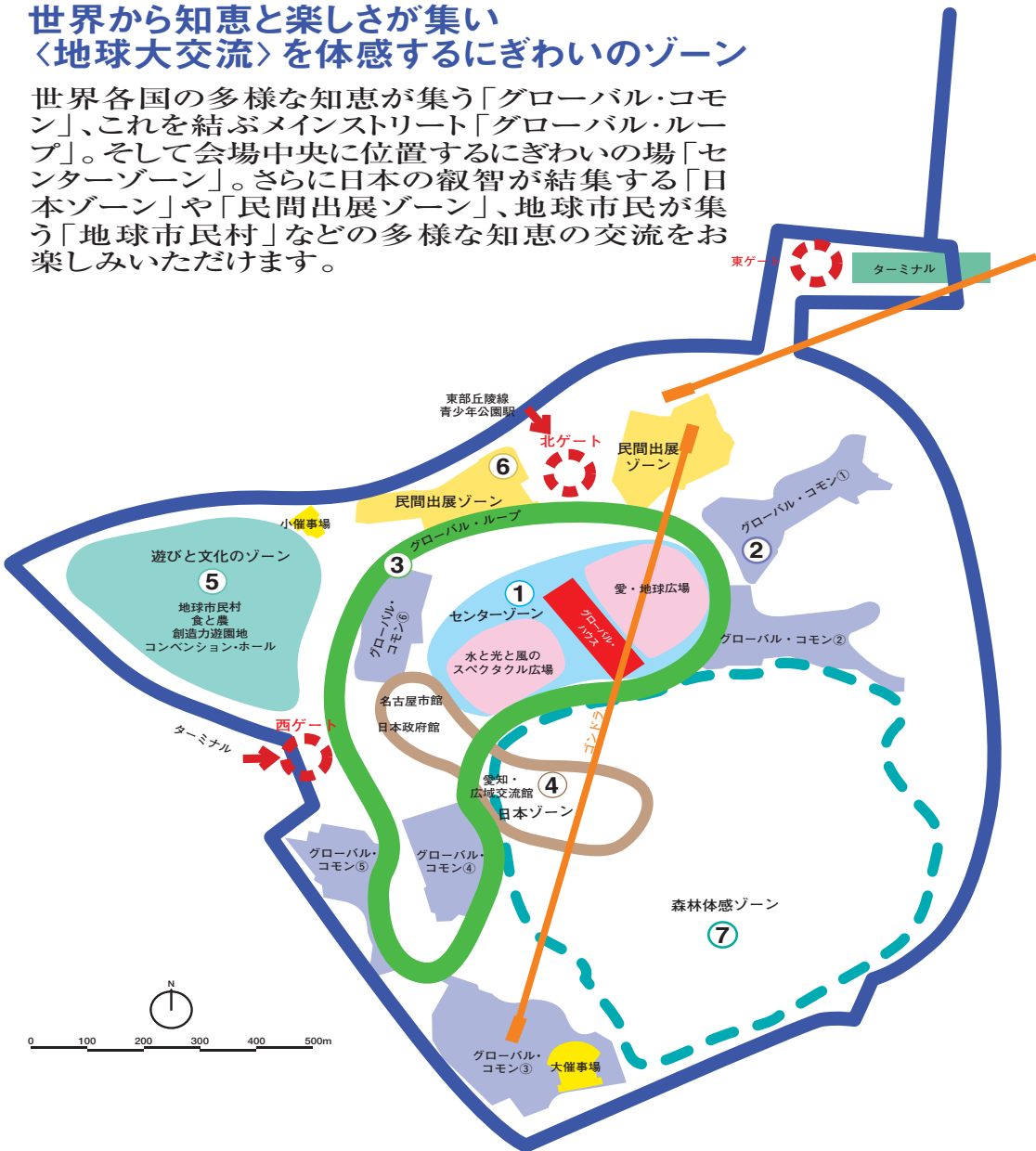
こんな大義名分を言った後で、大変に次元が下がる話ですが、万博を成功させるためには、何よりもまして皆様に入場券を買っていただくかなければなりません。来年10月からは前売券を3700円で売り出しますので、是非それをお買ひいただきたいこと、それからいろいろな際に、モーターボート(競艇)からなるべく多くのお金がいただけますように、お口添えを是非いただきたいこと、それからもし皆様方の関係の団体などで全国大会をされるときは、今後2005年にかけて名古屋市でいろいろな大会をしていただきますと万博への盛り上がり、2005年の盛り上がりができるのではないかと考えております。最後にお願い事で恐縮でございます。

本日は大変に良い機会を、この素晴らしい方々の前でお与えいただきまして、誠にありがとうございました。お礼を申し上げます。

# 青少年公園地区

世界から知恵と楽しさが集い  
 〈地球大交流〉を体感するにぎわいのゾーン

世界各国の多様な知恵が集う「グローバル・コモン」、これを結ぶメインストリート「グローバル・ループ」。そして会場中央に位置するにぎわいの場「センターゾーン」。さらに日本全国の観智が結集する「日本ゾーン」や「民間出展ゾーン」、地球市民が集う「地球市民村」などの多様な知恵の交流をお楽しみいただけます。



# 海上地区

## 自然との共生をカタチにする 市民参加のメモリアルゾーン

人と自然、人と人の交流こそが「愛・地球博」の原点です。ここでは市民が中心となって、自然の素晴らしさを見つめ直し、人と自然とが共生するための様々な知恵を紡ぎ出していくゾーン。地球市民に向けての呼びかけと交流を行なうのための会場となります。

